



木口北斗さんの子供の洗礼式 空斗くん・美海ちゃん・清次くん 2012年5月6日

島のひかり ホームページアドレス

<http://lifeaidgoto.jp.cx/simanohikari/>



発行

カトリック浦頭教会
広報委員会
五島市平蔵町2716
TEL 0959-00072
印刷・(株)才津印刷所

朱に、酒に、 主に交われぬ

主任司祭 岩崎 晋吾

「朱に」

朱とは人のこと。

悪い感化力について言われる「朱に交われぬ…」の言葉のようだが、本来は友によって善悪いずれも感化される意味である。要するに朱とは「人」のことで、人は人に染められていくのである。様々な人との出会いによって人は創られていく。

「酒に」

酒場に仕事帰りによってちょっと一杯飲んで帰る人たちもいる。奥浦でももっぱら神羊館か呼ばれの家で飲むのである。いづれにしても現代仕事に追われ若山散水や種田山頭火のように、常に酒に浸って生きるなどなどゆるされない働き盛りの人にとって、酒場は一時のストレス発散と心からの安らぎ場でもある。子供の頃、立ち飲み酒屋が多かった。その酒場にダイヤ焼酎の量

り売りを求めてよく通った。もちろん自分の為じゃなく祖父の為の酒だ。これが楽しみだった。仕事帰りではほろ酔い気分のおじさんたちがおいしそうに、そして楽しそうにダークダックス（体を斜めにして酒を飲むことらしい）でカウンターに並んで酒を飲んでいった。私はその間を分け入って酒屋のおじさんに量り売りの注文をしていた。そうすると酔ったおじさんがこちらを見て「坊主、酒のお使いか。えらいぞ！」そう言っておでんを一本くれた。これに味をしめ、よくその立ち飲み屋に通ったものだ。おでんをもらうまで粘った…。

酒に交わる人の中で私は朱（人）に交わらせてもらった。朱に交わるとは人に酔いしれること。酒に酔い、そして主に酔って主に染まって生きていけたらよい。

「私が飲む杯を飲むことができるか」この言葉の意味するところは深い。3つの「シュ」がこの言葉の中に深く交わっている。

岩崎神父様の 誕生日を祝う

梅雨も中休みの七月八日、好
天氣に恵まれたこの日、教会で
は岩崎神父様の四十八歳の誕生
会が、盛大に行なわれた。



来賓として、中尾市長、今度
市長に立候補される野口様、奥
浦小学校、中学校の校長先生と
教頭先生、市役所文化推進室の
方、神父様が一所に活躍されて
いる、スポーツクラブのメンバ
ーと豪華な顔ぶれ、それに小教区
役員、並びに信徒の方々に神羊
館ホールは満席となった。

会は、評議会書記の小田哲也
さんの司会進行により、和やか
な雰囲気でも盛り上がりを見せる。
程よく酔いがまわった所で、来賓
の方々の自己紹介が行なわれた。
この誕生会をするに当っては
毎度、魚を準備して頂くシメオ
ン会に今回も大変お世話になり
ました。本当に感謝いたします。
岩崎神父様、聖務や様々な活
動で多忙な毎日を過ごしておら
れますが、体に充分気を付けて
下さい。誕生会は五時に始まり
終わったのは十時でした。又、来
年を楽しみに。



24年度 地区集会

六月二十四日、半泊地区を皮
切りに地区集会が始まった。こ
の集会は、八月は休みとして、
九月十六日の浦頭Ⅱ班と嵯峨瀬
地区で終了となる。

議題として、三月の黙想会で
行なったシノドス会議で、様々
な意見が出たことの解決策、そ
のひとつとして、主日のミサの
変更を希望する者がいたため、
事前にアンケートを取り、その
結果に基づいて話し合いが持た
れる。もうひとつは、岩崎神父
様が、長崎教区の福祉委員とい
う事もあって、ミゼリコルデア
構想なる物が始まるうとして
います。ミゼリコルデア構想
とは、長崎のカトリック教会が
社会の人々に向けて、福祉活動
を行っていくためのボランティア
・ネットワークづくりのこと
です。岩崎神父様の説明を聞き
ながら少しでも実現に向けて進
む様、祈りたいものです。
また宮原地区の集会において

は、今後の宮原地区信徒の葬儀
において手狭さが指摘される宮
原教会から、浦頭教会で一括し
て葬儀ミサを司式する事が決議
された。

信徒との融和を計りつつ、新
たな課題も掘り起こす地区集会
の役割は今後も大きい事だろう。

秘

跡

《洗礼》

五月六日

ヨナ 木口 空斗

クララ 木口 美海

アンデレ・ジュンラク 木口清次

(父…北斗 母…育美)

七月十四日

ヨハネ 鍋内 虎大朗

テレジア 鍋内 姫陽

(父…清一 母…美久)

《帰天》

アナスタジア 浦セツコ (六九歳)

二〇一二年四月二十三日 堂崎

アガタ 赤尾 トミ (八八歳)

五月九日 浦頭

マリア 出口カオル (八〇歳)

五月二十六日 浦頭

トマ 川口久米雄 (九一歳)

六月一日 浦頭

那覇教区より巡礼

若葉の萌えるこの時節、五月九日沖縄那覇教区より、巡礼団が、浦頭教会を訪問し交流会を行なった。地元出身である崎濱宏美神父様の案内により、押川司教様、古川神父様と共に信徒二十七名が来られた。



酒に交わって押川司教様

夕方六時頃より、押川司教様の司式によりミサが行なわれ、崎濱神父様が説教の中で、浦頭小教区の歴史等を説明した。巡礼団は、すごく感動した様である。ミサ後、神羊館ホールに於いて、浦頭信徒との交流会

が始まり。評議会書記の小田哲也さんの司会によって、会は盛り上がりつつ行く。沖縄からの巡礼とあって、浦頭在住の新垣さん夫妻（奥様が新垣姓で沖縄出身）が、三線を弾き沖縄民謡で盛り上げて頂いた。陽気な沖縄の人だけに、司教様、神父様、参加者全員踊り出す始末。

この日のために、今回もシメオン・アンナ友の会の協力を頂き、又、婦人会も手伝って頂きました。男性は刺身造り、女性は昔から地元で伝わる手料理で持て成した。すべて手料理である事に感動された様である。

シメオン・アンナ友の会の皆さん、本当にありがとうございました。

浦頭小教区出身の神父様やシスターが多いことに、大変驚いたようです。翌日は木口汽船の案内により、久賀島に渡り、五輪教会、牢屋の窄教会を巡礼し、帰路に着いた様である。

井持浦 ルルド祭

昨年のルルド祭は、雨に見舞われたが、今年は好天気にも恵まれ、聖母行列をすることが出来た。

聖霊降臨の祝日であった五月二十七日。十三時より下五島の各教会の信徒三百余名は、聖母マリアを賛えるために、井持浦



マリア様の行列始まる

に集合した。

この日は、中総体と重なり参加者が少なかった。これからの課題となる。カントリーパークより、ロザリオの行列が始まりルルドの前に到着。各教会の代表による献花、ローソク奉納が



ルルド前でミサが始まる

あり、いよいよミサが始まる。福江教会の下口神父様の司式によるミサ、説教は、今年、奈留教会に着任された辻原神父様でした。

このルルド祭に先立って準備された、井持浦の信徒さん、下五島地区役員、当日役割担当された方々、そして参加された信徒の皆さんに感謝いたします。



寄り添い 続けて下さい

岩崎神父様

昨年、七月に東日本大震災の被災地を訪ねて約一年ぶりに再度この地を訪れました。一年前の状況とは、復興作業により変化はありましたが、それは、瓦礫が片付けられ、一つ所に積み上げられているだけの状況でした。ですから「復興」という再生に向けての動きはこれからなのだという事です。

今回被災地入りしたのは大震災の「復興支援全国担当者会議」というカトリック司教協議会主催の会議に参加するためでした。しかし、内容は会議だけでなく現地視察、被災者の体験談、各ベースの活動状況を知る内容になっておりました。

その中でいくつか感じたことをお話しします。まず、被災者の体験談を聞きながらやっと今、被災者の人たちがあの日を振り返りその体験を言葉にすることができるようになっていると感じました。「悲しい日が過去の

ことになり、そして今を生きています」という姿を見ました。また、仮商店街で働く人たちも家族、親類や友達の死を乗り越えて明るく前向きに歩み出しています。元気に私たちを迎えてくれました。このような「闇に光」の部分があれば、未だ闇の部分もあります。仮設住宅での孤独、引きこもり、鬱病、自死など、次に襲いかかる彼らへの新たな災いの問題になっていきます。障害者への援助、原発問題と風評被害、復興住宅建設の遅れ、生活保障と自活の問題など、これから解決していく問題はたくさんあります。

今現地は新たな問題を生んでいます。たった一年が過ぎたばかりです。これから長い道のりとなるでしょう。

皆さん
これから
もどうぞ
寄り添い
続けて下
さい。



被災地の現状

映写会開催

六月七日より、長崎では「日本二十六聖人列聖百五十周年記念行事」が盛大に行なわれています。浦頭教会では六月二十四日(日)の2番ミサ後、神羊館ホールにて、約八十年前、昭和六年に作られた映画「日本二十六聖人」の映写会が行われ、六十名弱の信徒が集い、鑑賞しました。

この映画は無声映画でしたが、長崎の聖母の騎士修道院の小崎登明修道士が弁士として、音楽や解説を吹き込んであるものでした。

製作者は長崎・浦上の信徒の平山政十氏で、当時のお金で三十万円、現在では六億円という、多額の私財をつぎ込んで作られ、当時の一流の俳優・女優が出演していました。

豊臣秀吉の時代の京都、フランススコ会の宣教師バプチスタ神父らの布教の様子から始まり、秀吉に認められ、日本初の教会が京都に建てられる。また、そ

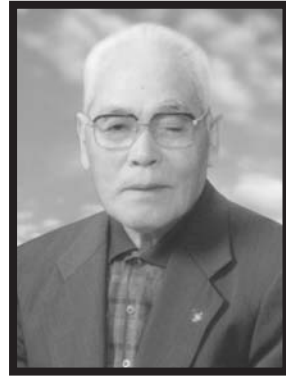
の後起きた大地震の際の宣教師や信徒たちの救助活動の様子が描かれていた。

しかし、サン・フェリペ号事件(イスパニア船が四国に流れ着いた事件)によって、事態が一変し、秀吉はキリシタン禁教令を出します。京都と大阪で、バプチスタ神父ら宣教師・修道士・信徒合計二十四名は捕らえられ、厳冬の中、遠く離れた長崎までの殉教の道程を歩いて向います。途中二名の信徒も殉教の列に加わり、長崎の西坂の丘で十二歳のルドビコ茨木ら少年三名を含む二十六名が十字架に掛けられ、槍を突かれて殉教します。

映画の序盤は「チャンバラ」もあり、滑稽なシーンもありで笑いも出ていたが、殉教の道程・西坂のシーンでは、殉教者の苦難と信仰心の強さが伝わり、非常に感動的でした。また、映画により時代の背景や経過が良くわかり、二十六聖人について以前より知識を深める事ができた様に思いました。

追悼

トマ・川口久米雄さん



浦頭小教区発足時から小教区の導き手として信徒をリードして来られた、トマ・川口久米雄さんが六月一日、九十一歳で帰天されました。

川口さんは二十才で第二次大戦の激戦地東南アジアに赴き生死の苦難を味わい、帰国後二十才で妻トミさんと結婚。その後、市役所建設課の仕事に就かれました。

教会活動においては、浦頭小教区発足(1969・昭44)と同時に初代使徒職評議会会長に就任、「司祭館」「神羊館」等相次ぐ建設事業で中心的役割を担われました。

また、1978年(昭53)よりは二期八年にわたり福江市議を勤められ、旧福江市及び古里奥浦のために力を発揮されました。

1987年(昭62)よりは十二年間財政顧問として教会を牽引され、まさに小教区の生き字引として教区発展に尽くされました。

常に背筋を伸ばし実直に歩み続ける川口さんの生き方、信仰の姿は、私達時代に流されがちな浦頭小教区信徒の良き導き手として語り継がれる事でしょう。

慈恵院夜市

大盛況

まだ梅雨のあけきらぬ曇り空の下、慈恵院の広場には爽快感のある雰囲気の流れていた。

七月十五日、長崎から来たお告げのマリア修道会志願者五名が、AKBの曲を含むポップス系の曲を演奏。聞く人達に、楽しさを与えていく。歩みでリズムを刻みながら、先に進んで行くこと、おいしそうな臭いに、おな

かの虫が興味を持ち出しそうだが、後で聞くと、今度の夜市が今まで一番、人出が多かったそうだ。福江の人達とか、地元以外の高校生も来たりして、売り上げアップ。慈恵院の子供達を作った品物は完売。特に好み焼きのトッピングの上手さは、舌の肥えた?来客にも格別の味覚を提供。又、イベントも盛りだくさん。名調子の司会者に乘せられて、抽選会では歓声があがり続け、最後のハイライトの打ち上げ花火は、夜空に映えて流れ星の様に闇に消えた。



ありがとう

梅雨時の大雨にも負けず、七月の暑さにも負けず、今日一日を懸命に生きている皆様、おたよりや御協力ありがとうございます。

- 神戸市 峯下 喜美代 様
- 長崎市 川上 正春 様
- 静岡県 Sr大 川 ヨシノ 様
- 北九州市 竹山 要 様
- 福岡県 赤崎 岩光 様

鉄人レース 奥浦に

六月十七日(日)2012五島長崎国際トライアスロン大会が開催されました。スイム3.8km・バイク180.2km・ラン42.2km・全226.2kmを15時間以内に完走するという過酷なレースに、全国より645名(うち地元23名)が参加しました。



木ノロバス停にて

今年(2012)はランのコース(42.2km)に初めて奥浦地区が採用され、石田城外濠公園と奥浦住民セン

ター(郵便局)を3往復という難コースに挑みました。

ボランティアには奥浦地区町内会、消防団、奥浦スポーツクラブ等多数の地区住民も参加し、沿道からは地域の方々が暗やみ迫る午後9時過ぎまで熱い声援を送り続けました。

選手名を呼んでの応援に交流の輪も広がり、「ありがとう。来年また来ます」との声も多数返ってきました。

奥浦の方々も、鉄人の「挑戦する心」に大いに触発された事でしょう。

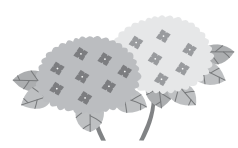
奥浦小教区・木口北斗君も11時間54分で完走!!

教会環境 整備進む

浦頭教会参道手摺設置工事が四月に、また教会施設内水道給水管取り替え工事が七月に実施されました。

参道手摺は高齢化の進む信徒

の教会駐車場県道側からの昇降のため。水道管については、老朽化による漏水事故を過去数度にわたり経験しましたが、45周年記念水洗トイレ工事を間近に控え、今後の水道管漏れ事故を未然に防ぐため実施致しました。



「洗礼式を終えて」

木口 北斗

去る五月六日、浦頭教会において三人の子供たちの洗礼式を執り行っていただきました。

大勢の方々には祝福されて、子供たちも緊張を隠せない様子でしたが、無事に洗礼を受けることができて良かったです。

岩崎神父様をはじめ、赤窄園長先生、皆様に本当に感謝しております。

教会との交わりの中で、どうか子供たちが健やかに成長しますように……。



空斗くん、美海ちゃん、清次くん

列聖百五十周年 記念ミサに参加して

鍋内 誠次

六月十日、浦上教会において日本二六聖人殉教者列聖百五十周年記念ミサが行われました。数十名の司祭団、駐日教皇大使・高見大司教様を含む八名の司教団の入堂で始まったミサは、まさに荘厳でした。初めに、駐日教皇大使ジョゼフ・チェノットウ大司教様の歓迎式が行われ、高見大司教様の歓迎の言葉の後大使が、日本のカトリック信徒への挨拶と、ベネディクト十六世教皇様からの百五十周年への温かいメッセージを紹介されました。司式した高見大司教様は説教の中で、大変な寒さの中、大阪から長崎までひと月近くに及ぶ道のりは、かなり厳しいものであり、その道中の労苦も磔の刑も喜びとした二六聖人の信仰の強さは、ひとえに天の父への愛そのものでした。と、教えてくれました。ミサの終わりに、

日本司教協議会会長で大阪大司教区の池長大司教様が、西坂が日本カトリックの正式な巡礼所として設立されたことを高らかに宣言し、「日本カトリック長崎・西坂巡礼所」と命名したことを報告されると、浦上教会を埋め尽くした信徒から、盛大な拍手が送られました。またその後、一年の三分の一ほどを五島の久賀島を創作の拠点として活動している画家、松井守男画伯から三部作からなる絵画の長崎教区への贈呈式も行われ、高見大司教様から感謝状が贈られました。



感動と感謝のうちに終えたミサは、二六聖人に対する更なる想いと、今の自分の信仰の希薄さを痛感させられるものでした。このミサに参列し、共同祈願の朗読という形で携わることができた喜びを胸に、慌ただしく長崎を後にしました。

奉仕作業

降り続いた雨も今日は一転、晴れて時より涼しい風があり、草刈作業には絶好の天気になりました。

今日この日七月八日壮年会、婦人会、シメオン・アンナ会、合同で堂崎教会、半泊教会周辺の草刈作業、ドミンゴス中村長八神父様の記念植樹周辺の草刈作業が行なわれました。

信仰の証しとして奉仕に額に汗してゐる姿は、画家ミレーの『晩鐘』の絵を彷彿させます。「祈り・働け」の言葉もありますね。久し振りの好天気に恵まれた今日に感謝、感謝。

おたより

毎回、島のひかり送って下さって、ありがとうございます。

紙面を見る度、子供の頃を思い出し何回も読みます。

北九州市 竹山 要

島のひかり、ありがとうございます。故郷のことをなつかしく思いつつ、信徒の皆様の頑張りに励まされております。聖母月に皆様への感謝をこめ、ロザリオを捧げております。

東京都板橋区 Sr 浜辺恵美子

なつかしい、ふるさとのお便りとともに、浦頭教会の神父様、信徒の皆様の深い信仰のお祈り感謝申し上げます。ふるさとをなれてゐる者の大きな支え、恵み、よろこびです。

静岡県伊東市 Sr 大川ヨシノ



ふるさとだより

帰ってきました。浦頭へ

鍋内 秀喜

子どもが小学校へ入学する前に浦頭へ帰ってくる予定でしたが、間に合わず、子どもには福江からバスで奥小へ通学させていましたが、ようやく浦頭に家を建て、五月末から住むようになりました。

保育園、小学校が近くなったのはもちろんですが、教会も近くなり、子どもは侍者として、親も一緒に信仰を深めていければと思います。

これも、家族一同よろしくお願ひします。



児童に消防活動を御披露目

五月十八日、奥浦小学校避難訓練に併せて地元消防団の小型ポンプ操法の児童への披露が行われました。四月に行われた消防大会の練習の為に小学校敷地内を借りており、先生と大会出場選手との意見が一致した事で披露することとなりました。

操法は小型ポンプに連結した吸水管を水利（水タンク）に投入し、ホースを延長して火点に向けて放水する訓練であり、実際の火災現場と同様の動作で行われます。選手が大会さながらの動作を行うと児童は食い入るように見ていました。終了後は握手を求められる一幕もあり選手は照れていたみたいです。奥浦地区内には一戸建ての他、歴史的建造物、多人数居住する施設等、火災を起こしてはならないものが数多くあり、日常から地域密着の消防活動を通して無災害を続けていければと思います。

第一回 蛍鑑賞会

浦頭の大蔵川（だいがわ）に黄色の光達（たつ）が舞い、幻想的な空間が演出された。

子供教室実行委員会を中心として、二年半程前から川を浄化する働きをするEM菌を混ぜたダンゴを年三回投入。効果が出て来た可能性もあり、美しい自然の復活に期待をもたせる。

鑑賞会には、五十人程が訪れ、癒しの夕べを堪能した。奥小二年、高橋菜々子さんは「黄色の光がきれいだった。これからはずっと見たい。」と笑顔で話していた。



“夜になったら蛍とぶかなー。”
（EMだんご投入風景）

編集後記

六月も過ぎまして、今年もあと半分となります。月日のたつのが早く感じるものです。

ふとしたことからのある書物、発見!!

問、人に最も必要なものは何ですか。

答、人に最も必要なものは宗教であります。

問、宗教とは何でありますか。

答、宗教とは天主に対する人の道であります。

50代後半以前の年代の方々はすぐ分かると思います。『カトリック要理』の書き下しの部分です。

キリスト教伝来後、幾世代過ぎてきましたが、今日のように経済は疲弊し、社会不安や心ない事件、事故の続く中、宗教の原点に返り「慈しむ」心が必要なことのように思えます。

赤尾 淳